団体インタビュー（ＮＰＯ法人ＶＡＩＣコミュニティケア研究所）

１　日　時　平成２７年１１月１０日（火）１６：２０～１６：５５
２　場　所　本庁舎８階市民局相談室
３　対象団体
　ＮＰＯ法人ＶＡＩＣコミュニティケア研究所
４　インタビューの結果
（１）なぜ、自分で活動を始めようと思ったのか。
・　一人では言えないような市民の声をまとめて形にして、代弁したいとの気持ちから。
・　当事者であったこと、また、当時者を見た、つながったことがきっかけ。例えば、子育中に自分が困っていたことについて、インフォーマルなサービスを立ち上げたりした。当時、専業主婦は社会参加したいとの気持ちが強かったと思う。
・　市役所の非常勤看護師として勤務し、市役所の公平中立のサービスでは対応できない、一律の制度では拾えないニーズがあることを感じ、市民活動団体であればそのようなニーズに対応できるというのが魅力で、活動に参加した。
・　行政がやってくれればいいという考えは持っていない。自分たちで活動してみて、その中で行政が税金を使って対応すべきと感じたものは行政に提言するなどしてきた。
・　困難な社会情勢の中で、努力しても逆らえない現実もある。その理不尽さに対し、一生懸命生きている人たちの力になりたいと思っている。
（２）団体の活動を今後より充実させるために、団体として取り組みたいことは。
・　活動資金をいかに確保していくかということ。対人援助の活動をしており、一人ひとりの事情を一本一本ひも解いて支援につないでいく必要があり、リスクもありスキルも必要な大変な仕事であり、ＮＰＯであっても従事者には必要な対価を支払うべきと考えている。そのためには、市との連携も必要。
・　財源のうち大きな割合を占めているのが市の委託事業である。
・　市の委託事業は単年度で成果を求められるが、すぐに数字で成果を示すことが難しい事業もあり、成果をどう見せていくかが課題である。数字以外の評価のものさしも考えていく必要がある。
（３）団体の活動を今後より充実させるために、市にサポートしてほしいことは。
・　財政的な支援。
・　信頼を与えること。対人援助の活動では特に信頼が必要であるが、団体名を名乗ったときに警戒されることもある。その点、市との協働事業の場合には、容易に信頼を得ることができる。
・　民生委員、社協などの地縁組織や、あんしんケアセンターなどの施設との連携が

必要であり、そのつなぎ役を期待したい。

- 市の組織は縦割りが進んでおり、市民から見て、例えば虐待のおそれがあるときにどこに通報したらよいのかわからない。連絡、相談窓口を見える化してほしい。
- 協働事業の取組みをもっとＰＲすべき。
- 現場を見てほしい。